

令和4年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の生徒（第3学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

- 実施日時：令和4年4月19日（火）
- 参加者数：中学校4校 生徒数377名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果

教科	国 語	数 学	理 科
中3年	全国・県とほぼ同等	全国・県を上回る	全国・県とほぼ同等

(2) 各教科の状況について

○=平均正答率が高い問題 ●=平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国語	○助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。 ○事象や行為、心情を表す語句について理解する。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。 ●表現の技法について理解する。
数学	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確立の意味を理解している。 ●結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。 ●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
理科	○化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかを見る。 ●日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。 ●継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・教科に関する調査の平均正答率は、国語、理科とも、全国・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です。また、数学は、全国・県平均を上回っています。（文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）
- ・無回答率の割合は全国に比べて低いです。最後まで解答しようとする態度が伺えます。
- ・国語の「記述式」・数学の「選択式」「記述式」・理科の「記述式」が全国・県平均を上回っており、それ以外の分野ではほぼ同等となっています。

②各教科の状況

○国語

- ・「知識及び技能」では、話し言葉と書き言葉との違いを理解することの設問の正答率が高くなっています。
- ・文章全体の構成や展開を明確にし、具体的に感想や意見を伝えることの正答率が低くなっています。
- ・様々な表現が読み手に与える効果について、自分の考えを明らかにしていく力に課題が見られます。

○数学

- ・2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いることがあることの設定で正答率が低くなっています。
- ・日常生活の問題を解決するために、比例の関係や割合など目的に合った数の処理の仕方を考える設問の正答率が低くなっています。

○理科

- ・「エネルギー」、「種子」、「生命」、「地球」の4領域における正答率は、全国・県と概ね同様な傾向が見られます。
- ・「問題を解決するために必要な観察の視点をもとに、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる」の設問では、正答率が高くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する結果について（生徒質問紙による意識調査）

望ましい状況○ 課題と見られる状況●

- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 友達と協力するのは楽しいと思いますか。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。
- 1日あたりゲームを2時間以上すると回答した割合は、52.8%となっています。
- スマートフォンなどSNSや動画視聴を2時間以上すると回答した割合は、56.2%となっています。

■主な傾向・課題

- ・困っている人を助けたり、いじめは許されないなど、高い規範意識を持っている様子が伺えます。
- ・仲間との関わりを通して協力したり、意見を交換したり、共によりよく生活している様子が伺えます。
- ・学級内で言語活動が活発に行われ、互いの関わりを通して、考えを広げ、深めたりする様子が表れています。
- ・自分自身や他者との対話を通して、対話的で深い学びに向けた力が育っています。

3 今後の取組について（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

- 国語科の授業において、主語・述語や修飾・被修飾などの語の照応、語順、文末表現（常体・敬体、副詞の呼応）、助詞の使い方、文や段落のつながりなどの文章の組み立てなどに着目して推敲する学習活動を積極的に取り入れます。
- 数学科の授業において、数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②数学の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
- 理科の授業において、解決した課題について別の条件から考えたり、今までの知識や経験と観察・実験の結果とを比較したりして、新たな疑問をもち問題を見いだす学習場面を取り入れます。

自己有用感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問い合わせ先
富士吉田市教育委員会
富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515)
直通 0555(23)1766